

すまきのこ



幼稚園認定こども園
尚綱大学附属こども園

「実りの秋」を実感

年長さんが九月に種をまいた大根を、先日収穫しました。

「実りの秋」とよく言いますが、本当にそのことを実感できているのが、本園の魅力だと思えます。本園で採れる物が、ぶどう、栗、柿、みかん、金柑、ピーマン、なす、大根、ねぎ、人参、さつまいも、...などたくさん



の種類があるという意味でも

「実りの秋」を実感できるので、それとともに、収穫までの期間や収穫時期、育ち方など、作物によってそれぞれ違いがあることに自然と気付くことができます。私にはそのことがとても貴重な経験であると思えます。園で実る作物を見ていると、当たり前のこともかもしれません。大根がぶどうより勝つていたり劣っていたりすることなどありません。どれも違ってどれも大切だと実感します。

それは園児の成長・姿と重なってみえます。

「自然から学ぶ」とは、もしかしたら、こういうことなのかもと、この歳になって恥ずかしながら考えることが出来ました。

怒らず伝える子ども

もの叱り方

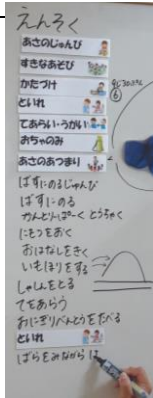
一〇月二一日の「リビン熊本」に「怒らず伝える子どもの叱り方」という記事が載っていました。ご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。

その中で「ゲームは一日一時間までと決めたのに、まったく守らない。こんな時どうする?」というケーススタディが取り上げられていました。よくない叱り方として「ゲームは一時間って言ったでしょ!!いつまでやっているの?!!」とお玉を握りしめているお母さんの絵が...。(気持ちにはよくわかります。)

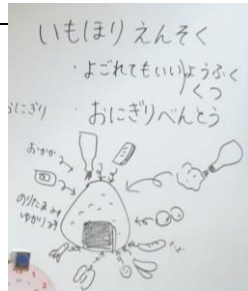
では、いい叱り方の例で挙げられたのはどのような方法でしょうか。それは、一日のスケジュールを見せて、「これを見て。ゲームに使える時間は一時間しかないでしょ?」「宿題が早く終わったらその分ゲームをしてもいいよ。」とタイムテーブルなどで分かりやすく教えるという方法でした。

このように子どもに見通しをもたせることは、園児にとっても同じです。これは芋掘り遠足

に行く前日の年長組の板書です。



現地に到着してからの流れを確かめながら、頭の中にイメージを描ける工夫をしています。イメージをもたせるのは文字である必要はありません。左のように絵で表してあげることも、分かりやすいですね。



こども園の教育・保育要領には「保育教諭等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、...前向きな見通しをもって自分の力で行くことの充

実感を味わうことができるよう、園児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。」とあります。子どもが前向きな気持ちで生活できるようにすることが大事なようです。

記事の中では、「叱る」目的は、相手のために何かを伝えること、相手に「そっか、そうすればいいのよ」と気づいてもらうこと」ともありました。

園児が幼児棟の歩行者入口の扉を自力で開けて園外へ飛び出していくことを防ぐために、扉にセンサーを設置しました。扉が開くとセンサーが反応し、事務室のチャイムが鳴る仕組みです。扉を通過される際には、お手数ですが、必ず閉めてくださるようご協力お願いします。また園児が一人で扉を開けた時には職員がすぐに対応しますが、もし保護者の方が開けられたときに園児が出ていった場合は、事務室に教えていただいたり確認していただいたり等のご協力をよろしくお願いします。

